

修士論文要旨

地域コミュニティにおける寺院活動の研究

藤 雄 好 華

〈目次〉

序 論

本 論

第一章 現代の地域における問題

第一節 地域コミュニティの現状

第一項 地域コミュニティの定義

第二項 コミュニティの変化

第二節 児童虐待について

第一項 児童虐待の定義と現状

第二項 児童虐待～なぜ起きるのか～

第二章 寺院の位置づけ

第一節 地域に密着してきた寺院

第二節 聞法の間としての寺院

第三章 僧侶の基本的姿勢

第一節 親鸞の念仏者としての姿勢「自信教人信」

第二節 親鸞の念仏者としての姿勢「御同朋・御同行」

第三節 親鸞の念仏者としての姿勢「同悲・同苦」

第四章 地域コミュニティにおける寺院活動

第一節 現代における寺院の活用（事例研究）

第二節 キッズサンガ～寺院を子どもの居場所へ～

第三節 これからの寺院活動と新たな展開

結 論

註

参考資料

参考文献

参考論文

参考URL

序 論

現代社会の特徴を表現する言葉として「無縁社会」がある。この言葉が示すように、近年は血縁・地縁・社縁の希薄化とともに地域社会そのものが弱体化し、人々の生活が変化するとともに地域においても「自死」や「孤独死」、「虐待」などの様々な問題が生じている。いったい何が問題なのであろうか。また、どうすればそのような社会問題を防止できるのか。このような問題には専門家の他にも民間の非専門家による協働が不可欠であると考ええる。

そこで寺院活動を中心とした地域社会のつながりを創ることで、地域のセーフティネットを補強し、社会の諸問題の防止に向けての取り組みについて研究をすすめることとする。

方法として、第一章では地域コミュニティの定義を提示し、注目した児童虐待の問題とその現状を考えていく。第二章では寺院がどのように展開してきたかを歴史的にとらえ、寺院が成し得てきた地域における役割を捉える。第三章では寺院に関わる僧侶の姿勢を省みるため、親鸞の姿勢のキーワードとなる「自信教人信」、「御同朋・御同行」「同悲・同苦」について考察し、寺院活動に関わる僧侶としての姿勢を考えていく。第四章では、地域社会の活性化をはかり、乳幼児や児童自身にとって「安心のできる場」を提供している寺院や、その母親たちの憩いの場として活用されている寺院の事例研究を行う。その上で、こうした諸活動をもとに、様々な社会問題の起こりうる地域において、セーフティネットを協働する寺院活動の可能性を考え、本来の真宗寺院のあるべき姿への転換を考察することとする。

現代の地域における問題

地域コミュニティにおける寺院活動を模索するため、始めにコミュニティの定義とその現状について確認することとした。

本論で対象とする主たるコミュニティを地縁による「地域コミュニティ」と定義し、地域コミュニティにおけるつながりについて注目すると、つながりの希薄化が進んでいる現状があった。これにより、個人や家庭の単位で解決できないような問題（家庭内暴力、虐待、非行など）の深刻化を緩和する機能や、災害等の危機的状況に対応する機能が失われ、地域社会に問題が発生した場合には住民の安全・安心が脅かされるという社会問題が発生しうる現状があった。次に筆者が関心をもっていた「児童虐待」について考察すると、ほとんどが実の母親によるものだということ、地域コミュニティにおける子育て機能の弱体化により、子育てを任された母親の孤立化は特に深刻であることが明らかになった。

以上のような地域の抱える育児問題・児童虐待の問題に対し、地域に存在してきた「寺院」という場を有効に活用することで、地域の中で孤立した人々を結びつけることは可能だろうか。

寺院の位置づけ

そこです、地域コミュニティにおいて寺院という場がどのような役割を成してきたかを確認しておきたい。「地域に密着してきた寺院」と「聞法の間としての寺院」との側面から寺院は単なる宗教施設だけでは無く医療機関、社会福祉施設、教育機関、そして地域の憩いの場といった様々な役割を時代に合わせ、地域コミュニティにおいて中心を担ってきたということ、そして寺院での聞法の場が教えに遇わせていただくための場として多くの人々に開かれたものであることを確認した。

僧侶の基本的姿勢

寺院に関わる浄土真宗の僧侶の姿勢を省みるため、親鸞における念仏者としての姿勢を「自信教人信」、「御同朋・御同行」「同悲・同苦」の三点をあげ、寺院活動に関わる僧侶としての姿勢を考察した。すべて如来に根拠づけられた報恩の実践として、仏を讃嘆し、名号を称え念仏し、周りに聞かしめるということが「自信教人信」の実践であり、親鸞にとってはすべてのいきとしけるものも、自分自身も、他の念仏者も、ともに仏の救いにあずかり、念仏をよるこぶ仲間であるという姿勢をみることができた。

地域コミュニティにおける寺院活動

地域社会の活性化をはかり、乳幼児や児童自身にとって「安心のできる場」を提供している寺院や、その母親たちの憩いの場として活用している、大阪府の全興寺と埼玉県善行寺に2カ所の事例研究をおこなった。

全興寺は寺院がそれ単体だけで活動しているのではなく、平野区のまちづくりと連携した形で活動が行われている。平野区の町づくりは、「平野の町づくりをかんがえる会」という住民主体の取り組みであり、全興寺の住職である川口良仁住職が事務局を務めている。地域の取り組みと共同し、寺院を解放し、地域との関係をより密接に持つことで地域の人々、子どもたちの「居場所」、「遊び場」として活用されている。善行寺では「ご法義繁盛と地域のこころのオアシスたる寺院づくり」と掲げた活動が行われ、地域コミュニティの中で人と人とを繋ぐ「憩いの場」としても機能していた。参加する人々それぞれの御法義色を活かし、寺院を中心としたグラデーション構造をもった運営が行われていた。「マミコミ（母親の子育てサークル）」のようにあまり宗教色をださない活動から親子で法座に座するという宗教色をだした活動へ流れていくような構造を持っており、その対象によって様々な活動が行われているのである。

そして寺院活動が日常性、継続性を有しており、その活動によって地域の人々と継続的な関

わりを持つ事で、信頼関係が生まれ、寺院が「安心できる場」として認識され、また同時に「自身が認められる場」としても成立していた。寺院を軸に子どもから大人まで心安らぐ「安心できる場」として、地域と寺院とがつながっていく環境がつけられる。それが、人々の悩みや思いを受け止め、互いに支え合う場としての役割を果たすことができる。また、共にお念仏にあつていこうという「聞法の間」としての役割も果たしている。これは伝統的に真宗寺院という場が持っていた機能が現代においても成立しているということである。

結 論

地域社会の活性化をはかり、乳幼児や児童自身にとって「安心のできる場」を提供している寺院や、その母親たちの憩いの場として活用されている寺院への見学・実習を通し、事例研究をすすめてきた。その結果、寺院活動が日常性、継続性を有しており、双方に信頼関係が生まれることで、寺院が「安心できる場」として、また同時に「自身が認められる場」となっていることを導きだすことができた。これは、宗教者の日常の関わりが自死を防いでいたという事例からも、寺院が作り得るネットワークを利用し、悩みや苦しみに応じた支援の得られる場を繋ぐことは可能であると考えられる。

地域コミュニティに存在してきた寺院が、その本来の意味、姿を再確認することで、コミュニティ内で十分に起こりうる、虐待問題などの社会問題に対応するセーフティネットを協働する可能性は充分にありうる。

これからの地域コミュニティにおける寺院活動は、こうした地域社会の問題に僧侶自身が目を向け続けること、そして継続性のある活動を行うことが求められる。

虐待という問題をあげても、他人事や関係のないものとして捉えることはできないと感じ、こうした社会問題に向き合う寺院のあり方を模索し、寺院活動の可能性を見いだすことができた。

しかし、全国にはより専門性を持ちながら対応している寺院や団体がある。これから今回事例として挙げることはできなかった様々な活動を学び、更なる研究を進めていきたい。

〈参考文献〉

教学伝道研究センター編『浄土真宗聖典（註釈版 第2版）』本願寺出版社 2004年

教学伝道研究センター編『浄土真宗聖典全書二 宗祖篇』本願寺出版社 2011年

黒川昭登『児童虐待の心理治療—必要なのは「しつけ」より愛情—』朱鷺書房 2005年

近藤千加子『児童虐待の心理療法—不適切な養育の影響からの回復接近モデルの提起—』風間書房 2011年

千葉乗隆『親鸞聖人ものがたり』本願寺出版社 2000年

- 千葉乗隆『親鸞・覚如・蓮如』法蔵館 2001年
 寺川幽芳『親鸞の思想—宗教心理学の視点から—』法蔵館 2005年
 友久久雄編『佛教とカウンセリング』宝蔵館 2010年
 二葉憲香『新編 歴史の中の親鸞』永田文昌堂 2006年
 山崎昭見『現代仏教教化法』百華苑 1982年
 山崎嘉久編『ふだんのかかわりから始める 子ども虐待防止&対応マニュアル（改訂第2版）』診断と治療社 2011年

〈参考文献〉

- 浅井成海「真宗伝道学の研究」『佛教文化研究所紀要』42号 2003年
 池田勇諦「自身教人信—真宗教化の位置—」『同朋大学論叢』49号 1983年
 上山大峻「真宗伝道論」『教学研究紀要』7号 1998年
 岡亮二「真宗伝道学の一視点」『佛教文化研究所紀要』39号 2000年
 葛野洋明「釈尊の説教〈応病与薬〉と浄土真宗の伝道」『印度学佛教学研究』99号 2001年
 常光香誓「浄土真宗における伝道の課題—」『教学研究紀要』7号 1998年
 寺川幽芳「親鸞における対面的人間関係—相談伝道の視座から—」『真宗学』90号 1994年
 徳永道雄「親鸞聖人の報恩感における伝道的立場」『真宗学』89号 1994年
 徳永道雄「親鸞聖人の真佛弟子釈における伝道的立場」『真宗学』91・92号 1995年
 長岡岳澄「真宗伝道に関する一考察—文化的自己観に基づく理論的枠組み—」『印度学佛教学研究』54号 2006年
 中西至「伝道教化に関する一考察」『教学研究紀要』8号 1999年
 広瀬龍城「親鸞における伝道の本質」『伝道院紀要』25・26号 1981年
 深川宣暢「親鸞教学における伝道の今日的課題と可能性」『真宗学105・106』2004年
 深川宣暢「真宗伝道学方法論の考察—真宗教義と伝道学の方法—」『真宗学』119・120号 2009年
 矢田了章「親鸞における伝道の意味」『真宗学』117号 2009年
 吉川悟「寺院活動における新たな「心理的援助」—相談窓口機能の可能性—」『佛教文化研究所紀要』50号 2011年

〈参考URL〉

- オレンジリボンHP (<http://www.orangeribbon.jp/>)

〈参考資料一覧〉

- (資料①) 平成19年国民生活白書統計
 (資料②) 「児童虐待相談の対応得件数及び虐待による死亡事案件数の推移」
 (資料③) 死亡した子どもの主な加害者統計
 (資料④) 大阪府全興寺「地獄堂」著者撮影
 (資料⑤) 大阪府全興寺「ほとけのくに」著者撮影
 (資料⑥) 大阪府全興寺「おも路地」著者撮影
 (資料⑦) 大阪府全興寺「平野まちぐるみ博物館」著者撮影
 (資料⑧) 大阪府全興寺土曜日の境内の様子著者撮影
 (資料⑨) 埼玉県善行寺善行寺外観
 (資料⑩) 埼玉県善行寺内陣様子